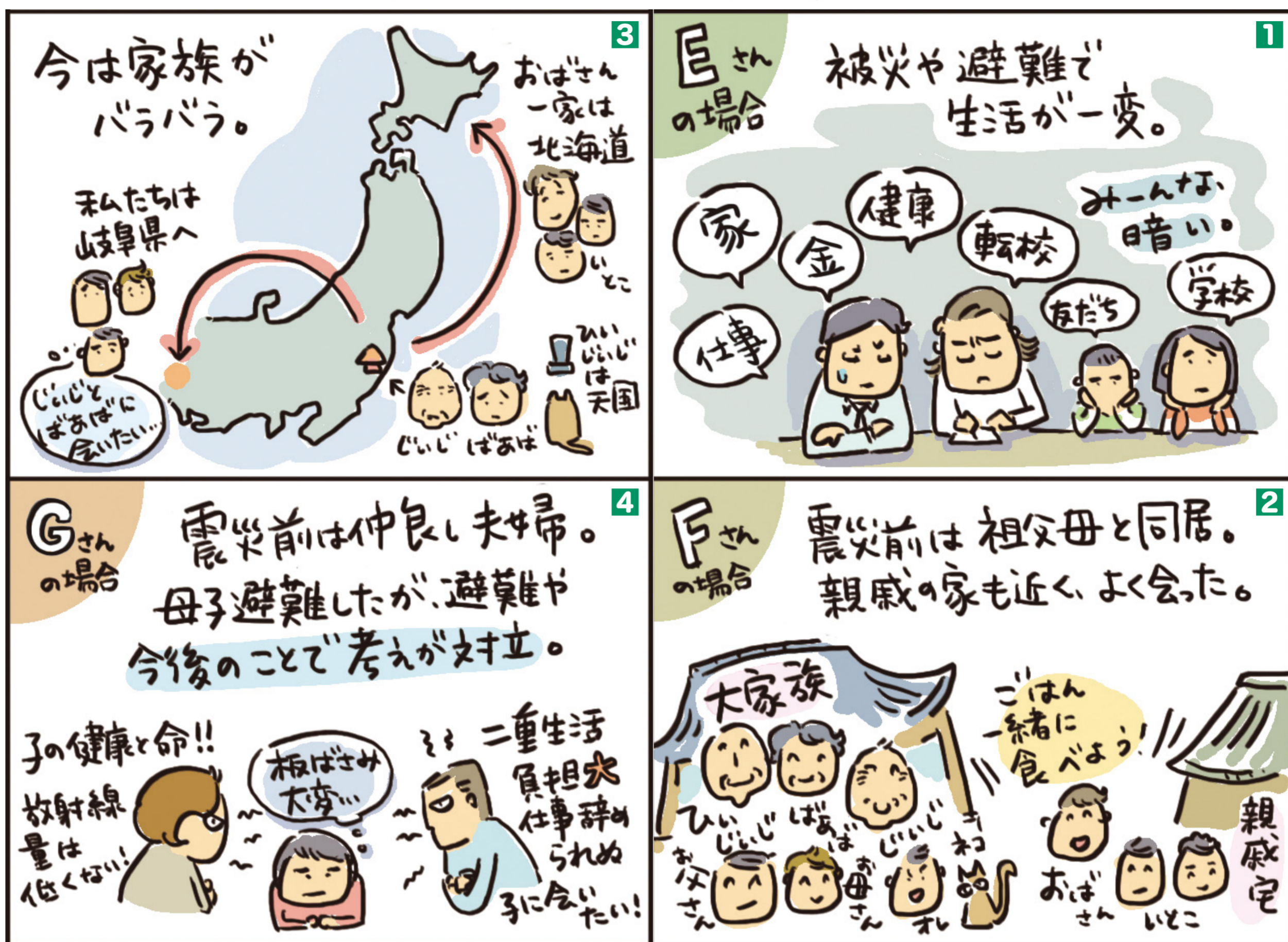


家族関係に影響大!



避難による家族関係の変化

震災前は、祖父母やペットと同居し、頼りになる親戚が近所にいる暮らしがバラバラになりました。仕事等の関係で離れられない父親を残し、「母子避難」した世帯も多く、家族関係にも大きな影響を及ぼしました。一時的に子どものみが県外の親戚や知人に預けられ、親と離れての避難生活に強い不安や寂しさを感じていた人もいます。

子ども・若者の声

- 福島の祖母は優しく、可愛がってくれていた。祖母も寂しい気持ちがあったと思うし、私が「福島に帰りたい」と言っている時には胸を痛めていた。
(福島県白河市:当時中学1年生)
- 居候生活から、別の住まいにお母さんと私で住み始めた時、まだまだ原発のニュースも多かったし、このまま愛知にずっといるんだなと感じた。親戚も友だちもみんな福島にいたから、ずっと帰りがかった。お母さんもそうだったと思うけど、私のために避難しているから、我慢と諦めがあったと思う。
(福島県国見町:当時小学3年生)
- 福島では自営業で、家にはいつも家族の誰かがいた。祖父母は福島に残り、三重に引っ越してきた後、両親は仕事が大変そうで、私たち姉妹だけで留守番することが多くなってすごく不安だった。
(福島県郡山市:当時小学3年生、5年生)

311県外避難者について考えよう